

新 秋 剣 連

発行
秋田県剣道連盟
 〒011-0945
 秋田市土崎港西5丁目11-10
 TEL 018-838-1783
 FAX 018-845-3255
<http://akitakenren.com/>



秋田県剣道連盟創立70周年記念式典 挨拶

秋田県剣道連盟 会長 目黒 大作



秋田県剣道連盟創立70周年記念式典を挙行するにあたり、公益財団法人秋田県スポーツ協会専務理事齋藤譲様、株式会社秋田魁新報代表取締役社長佐川博之様のご臨席を賜りましたこと、まずもって御礼申し上げます。

本日ここに、ご参列頂きました皆様と共に、慶賀の良き日を、迎えることが出来ましたこと、深く感謝いたすものであります。

ここ10年、斯道発展の為、大所高所からのご指導、ご支援頂きましたこと誠にありがとうございます。特にコロナ禍において、活動を継続できましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

さて、今日の剣道の隆盛の影には、二度にわたる剣道存亡の危機がありました。その再興に立ち上がった秋田の剣人について、この機会に触れさせてもらいたいと思います。

第一の危機は、江戸から明治維新に移り、近代国家に生まれ変わろうと社会の諸制度が一変、特に武士階級が廃せられたことで、武術を顧みる余裕もなく、すたれていくという、剣術(剣

道)の存亡の危機でありました。

明治28年、この危機に「日本人が、日本を忘れて何が出来る」と言って立ち上がったのが、秋田の亀田出身で、当時、京都府収税局長の鳥海弘毅氏(岩城の亀田における鳥海顕彰大会は、残念ながら本年で最後になる)でありました。それは、日本古来の武道を奨励し、武徳を涵養することを願って、同志と共に全国組織の大日本武徳会を設立、自ら幹事長として、第1回武徳祭演武大会を開催、その後京都に現存する「武徳殿」を造営するなど武道の奨励に努められたのであります。この第一の危機は、武を尊ぶ、尚武秋田の剣人によって脱せられたのであります。

第二の危機は、戦後GHQによって剣道が禁止の憂き目にあい、剣道人にとって、暗黒の時代が8年続いたのであります。このとき復活に立ち上がったのが本県出身の石田一郎氏であります。石田先生は、秋田師範から東京高師、厚生省体育官の経歴の持ち主で、GHQに剣道をスポーツとして認識させるため奔走、撓競技として認められて、復活の後の剣道への道筋をつけたのであります。このように二度の危機を乗り越え、今日の剣道が命脈

(次ページに続く)

受賞者一覽

1. 物故者表彰

(長い間 秋剣連・郡市連盟要職に在任し斯道の普及振興に貢献)

長谷部 誠(秋剣連)

鑑 喜裕(秋剣連)

佐々木 茂(秋剣連)

渡邊 明(秋剣連)

岸野 直彦(秋剣連)

石黒 敏(秋剣連)

森内 秀幸(鹿角)

今 功夫(横手市)

麻生 悟朗(居合道杖道)

大野 剛(高齢剣友会)

小熊 一男(高齢剣友会)

鈴木 由克(高齢剣友会)

大森 政雄(高齢剣友会)

鍋島 喜隆(秋剣連)
吉田 雅宏(秋剣連)
高橋 勝吾(秋剣連)

4. 表彰状

(秋剣連会長、副会長、評議員、理事、監事の職に8年以上在任し、斯道の普及振興に貢献)

木内 直幹(秋剣連)

小松 誠(秋剣連)

伊藤 忠善(秋剣連)

鎌田 耕平(秋剣連)

柏木 幹夫(秋剣連)

田口 昇(秋剣連)

高橋 亮(秋剣連)

山崎 義裕(秋剣連)

芳谷 正人(秋剣連)

秋元かおり(秋剣連)

寺田 潤(秋剣連)

勝田 宗之(秋剣連)

加藤 安明(秋剣連)

田口 和美(秋剣連)

山村 浩一(秋剣連)

山崎 良明(横手市)

今野 憲夫(横手市)

糸井 一保(横手市)

5. 表彰状

(秋剣連事務局に長期にわたり勤務し、斯道の普及振興に貢献)

保坂 孝

三浦 睦子

6. 表彰状

(秋剣連加盟団体会長・副会長・理事長の職に連続8年以上在任し、斯道の普及振興に貢献)

佐々木 寛(大館北秋)

工藤 茂宣(能代山本)

淡路 芳和(男鹿潟上南秋)

鈴木 美敏(男鹿潟上南秋)

村上 健(秋田市)

和田 満春(道場連盟)

7. 表彰状

(秋剣連加盟団体で斯道の普及振興に貢献)

小笠原 聡(大館北秋)

青山 仁(大館北秋)

田山 恵子(大館北秋)

藤原 淳逸(大館北秋)

杉山 良一(秋田市)

尾形三香子(秋田市)

石井 実(由利本荘にかほ)

佐藤 睦美(横手市)

高橋 彰(横手市)

鎌田 誠(横手市)

和泉慎太郎(横手市)

柴田 浩義(湯沢雄勝)

山脇 知之(湯沢雄勝)

須田恵美子(湯沢雄勝)

福原 美架(湯沢雄勝)

大西 淳(湯沢雄勝)

小原 光晴(湯沢雄勝)

山脇 清子(湯沢雄勝)

釜田 克己(湯沢雄勝)
黒澤 長栄(湯沢雄勝)
大原 哲雄(居合道杖道)
吉田 春喜(居合道杖道)
田原 忠男(居合道杖道)

大畑 博正(居合道杖道)

作山 長造(居合道杖道)

後藤 竜美(道場連盟)

畠山 宏良(中体連)

伊藤 秀樹(中体連)

橋本 文子(中体連)

東海林 斉(中体連)

菊地 弘志(高齢剣友会)

堀松 信行(高齢剣友会)

松村 佑治(高齢剣友会)

村上 建一(高齢剣友会)

鈴木 吉夫(高齢剣友会)

滝田 毅(高齢剣友会)

渡邊 壽男(高齢剣友会)

中田 栄(高齢剣友会)

東海林和英(高齢剣友会)

杉山 忠幸(高齢剣友会)

登利屋静雄(高齢剣友会)

斎藤 信行(高齢剣友会)

今 美喜夫(高齢剣友会)

高橋 正彦(高齢剣友会)

大山 清久(高齢剣友会)

遠藤 律子(女子部)

佐々木圭子(女子部)

令和4年栃木国体を振り返って

理事長 木浪 恒二

令和4年いちご一会栃木国体剣道競技が10月3日から5日の3日間、栃木県宇都宮市に建設されたユウケイ武道館で開催されました。

本県からは、成年男子、少年男子、少年女子の3種別が出場し、少年女子が決勝で地元の栃木選抜に惜しくも敗れたものの、見事に2位の成績を収め、少年男子も5位に入賞する素晴らしい試合を繰り広げてくれました。

少年チームは東北ブロック予選で男子が優勝、女子が2位と国体での活躍に期待を持たせる試合内容でありましたが、本番でこれほどの力を発揮できたことは、選手の頑張りや勿論のこと、指導に当たってくれたスタッフ5名の的確な指導によるものと敬意を表します。

成年男子の試合を含めた、本県選手団の体勢を崩さずに正面から攻め入る正攻法の剣風は、大会関係者からも高い評価を得る戦いぶりでした。

国体チームの強化は年間を通して行われます。高体連指定選手による強化練習会の実施。さらに、大会での試合内容を参考にしながら選手を絞り、最終選考会では6人の代表選手を決

定する厳しい選考試合が行われます。また、成年男女も各自の稽古はもちろん、強化練習会や対外試合などを通じて稽古を重ねます。特に今年の少年チームは小学生の時代から力のある選手が多く、各年代を通じて東北・全国大会で活躍してきた選手達でした。昨年の少年チームも男女アベックでミニ国体を勝ち抜き、三重国体への出場を決めていたものの、無念の国体中止。県スポーツ協会との強化ヒアリングの席上、後藤強化委員長からの「今年の国体(三重)が中止になったのは本当に残念だった。今年、来年の少年チームは男女共に各年代で好成績を残し、期待の大きい年代だ。全国大会でも上位進出できる地力を持っている。」との発言通り、高校剣道集大成の大会で見事に花を咲かせてくれました。現在の指導者のみならず、各年代で選手達を指導してくださった皆さんに感謝申し上げます。

秋剣連創立70周年の記念すべき年に素晴らしい成績を残すことができ、たことを追い風として、引き続き、努力を重ねていく所存でございます。応援ありがとうございます。

(三面より続く)

8.表彰状

(秋田県出身の国外、県外在住者で
斯道の普及振興に貢献)
加藤 浩二(秋剣連)
和田 圭介(大館北秋)

9.表彰状

(全国大会優勝・準優勝した個人も
しくは団体及び監督)
平成25年度
第8回都道府県対抗少年剣道
優勝大会
準優勝
秋田県チーム
監督 尾形 茂

平成28年度 全国高等学校
定時制通信制体育大会
第47回剣道大会
男子個人準優勝
照井 直樹(横手高校定時制)
監督 新田 光

平成29年度
第30回全国健康福祉祭あきた大会
剣道交流会
優勝
秋田県Aチーム(高齢剣友会)
監督 菅原 孝雄

令和3年度
第68回全国高等学校総合体育大会
剣道競技
男子団体準優勝
秋田市立秋田商業高等学校
(高体連)
監督 高橋 伸友

令和4年度
第44回日本剣道少年団研修会
(体験・実践発表会)
小学生の部最優秀賞
鈴木 羽香(道場連盟)

令和4年度 全国高等学校
定時制通信制体育大会
第53回剣道大会
男子個人準優勝
最上 羽咲(横手高校定時制)
監督 萩原 亨

第77回国民体育大会
剣道競技
少年女子準優勝
秋田県チーム(秋剣連)
監督 山崎 洵



大舞台で結実した秋田の矜持

少年女子監督 山崎 洵

令和4年10月3日に栃木県宇都宮市ユウケイ武道館で「いちご一会栃木国体剣道競技」が開催されました。本県少年女子チームは会場を大いに沸かせる活躍を見せ、秋田国体以来の

決勝進出を果たし、準優勝という輝かしい成績を収めました。このような素晴らしい成績を残すことができたのは選手の頑張りはもちろんですが、本当に献身的に支えていただいた佐々木コーチ、加藤コーチの存在、日頃より御指導いただいている剣道連盟や各校の先生方、保護者の皆様の支えがあったからこそだと感じています。また、小・中・高と連携しながら時間をかけて秋田県全体で強化してきた成果が現れてきていることも要因だと思えます。少年女子チームは秋田北高校2名、秋田商業高校3名、秋田南高校1名の選手構成で、とにかく仲が良く話し合いが活発で、それと同時に「この子達は本当に剣道が好きだな」と感じる場面が多かったことが印象に残っています。稽古の中で見つけた課題は次の稽古までには改善してきて

おり、稽古を終えた後の振り返りは欠かさず、分からないことや疑問点をそのままにせず質問に来る姿勢は本当に模範的でした。チームが結成されて最初のミーティングの際に掲げた



①とにかく元気よく②何でも言い合えるくらい皆で仲良く③プライドを持って秋田代表の名に恥じない戦いをしようという3つの共通認識のもと日々の稽古に励みました。例年激戦となる本国体予選に位置する東北総体(ミニ国体)では、最終戦までもつれ込みましたが3勝2敗の第2位で無事出場権を得ることができ、本国体に臨むこととなりました。本国体の初戦は関西ブロックを制して出場してきた兵庫県でしたが、中堅高階の一本を守り切り1-0で勝ち、再来年に地元国体を控える佐賀県との二回戦を迎えることとなりました。アップ会場でも一際速さと力強さが目立ち、剣道王国九州特有の連続技の冴えが特徴という印象を持ちました。試合は一進一退の攻防が続ぎ、大将戦を終えた時点で2-1となり代表決定戦となりました。インターハイ個人3位の実力者である佐賀県大将の碓選手に対して本県先鋒佐藤の面返し胴が決まった瞬間の会場のどよめきは今でも忘れることができません。準決勝は香川県との対戦となり、秋田らしい端正な構えと打ち切る大技が要所に見られ4-10で勝ち、地元栃木県との決勝を迎えました。試合を重ねるごとに自信を

持ち、成長していく生徒の姿に頼もしさを感じながら決勝戦の舞台に臨みました。地元の大応援の中で試合が始まりましたが、試合内容は互角以上であつたと思います。先鋒佐藤の相手の居着きを打ち抜いた面、次鋒及川の相手の下がり端への面、大将小野の連続技での面、選手全員の澁刺とした戦いぶりが今も目に焼き付いています。敗れはしましたが、その内容は素晴らしい、会場内の他県の先生方からも高い評価の声を頂くことができました。監督として、全国規模の大会で決勝の舞台に立つ機会をいただけることは本当に貴重であり、生徒には感謝しかありません。決勝戦の試合後に円陣を組んでやりきった顔で涙を流しながら喜ぶ選手達を見て、ここまで頑張ってきたことが良かったなと思ったことを鮮明に覚えていきます。監督として、今回の国体に参加させていただきましたが、秋田県の剣道は十分に全国に通用することを選手が教えてくれました。この経験を活かし、今後も秋田県のために頑張っていきたいと思えます。多大な応援をいただいた皆様から御礼申し上げます。ありがとうございました。

捨てきって打つ尚武秋田の剣を实践

少年男子監督 目黒 大祐

令和4年10月3日、栃木県宇都宮市において第77回国民体育大会が開催された。昨年度に引き続き、少年男子の監督を任じられ指導にあたったが、これまでの軌跡を振り返りたい。

昨年度の三重国体は、インターハイで団体準優勝のメンバーを擁し、ミ二国体(東北ブロック予選)を全勝で通過したものの、開催が中止。期待を持たれたチームは、昨年から代表入りを果たしている2人を筆頭に、攻撃力の高いメンバーが揃った。昨年も代表だった2人がいることで、チーム全体が国体で上位進出を果たそうという雰囲気作りが自然とできていた。

今年度の青森県三沢市で行われたミ二国体は、リーグ戦終盤まで気の抜けない戦いが続いた。何度か大将戦となるものの、安定感のある試合運びで一戦一戦を確実に勝利し、全勝で予選を通過することができた。



国体出場を決めた後は、栃木県や茨城県との強化試合、地元秋田県警察機動隊との試合稽古を通して強化を図った。大会に向けて選手たちは日に日に強さを増し、指導陣もその姿に期待を膨らませた。

国体本戦では、一回戦、神奈川県と対戦した。初戦ということで少し動き

が堅くなり一勝リードされて迎えた中堅戦、お互いに有効打がなく膠着する場面続いたが、終盤に相手の出ばなを捉える見事な面を決め、勝負を振り出しに戻した。その後、大将が2本勝ちを収め2対1で勝利となった。続く準々決勝、宮崎県と対戦。先鋒と次鋒で一勝一敗、中堅と副将で一勝一敗で迎えた大将戦、本数で一本リードした

相手をあと一歩捉えきれず敗退した。試合後は選手・指導陣共々、改めて一本の重みを噛みしめつつ、第5位入賞の健闘を称え、拍手で最後のミーティングを終えた。

コロナ禍の影響で、ここ数年は暫定的な試合・審判法で試合が行われ、鏝り合いからの技は一呼吸まで、相手と接近した場合も速やかに分かれるなど、試合の様相が変化してきた。鏝り合いや近間での攻防が減り、一足

一刀の間からの技が勝敗を左右する流れにある。近年のそうした変化は、

秋田の剣道に追い風となつていようだ。「攻め合いから捨て切つて打つ剣道」が現行の試合方法に噛み合っているのだから。先達から受け継がれてきた「尚武秋田」に込められた精神(勝

負に拘り勝ち方に拘る剣道)をしつかりと継承し、後進に伝えていかなければならないと改めて感じる。

最後に、秋田県剣道連盟をはじめ共に戦った選手・スタッフの方々、そして国民体育大会出場にあたって支援してくださった多くの方々へ感謝を申し上げます、本稿の終わりとしたいと思います。

最終成績

●少年女子 準優勝

1回戦 対 兵庫 1-0

2回戦 対 佐賀 2-2

(代表戦勝ち)

準決勝 対 香川 4-0

決勝 対 栃木 1-2

●少年男子 第5位(ベスト8)

1回戦 対 神奈川 2-1

2回戦 対 宮崎 2-2

(本数負け)

●成年男子 2回戦敗退

●女子総合成績 第2位

●男女総合成績 第3位

全国中学校剣道大会 女子団体三位入賞

秋田市立勝平中学校 齊藤 明子

全国大会準決勝。場所は北海道釧路市湿原の風アリーナ釧路。相手は東北大会決勝で敗れた宮城県聖ドミニコ学院中学校。東北大会団体決勝で1対3の大差で敗れ、東北大会五連覇の目標を阻止された相手。その学校と、この大舞台の全国大会準決勝で対戦することになり、とても嬉しく思います



た。今までも、よきライバルとして切磋琢磨してきましたが、今度こそ東北大会のリベンジと思い、自分たちの全てを出し切って戦いました。結果は1対2の僅差で敗れてしまい第3位という結果になりました。全国大会を振り返ってみると予選から一試合も楽な試合はなく、常に接戦となり、苦しい試合の連続でした。その中で勝ち上がる事ができたのは、チームワークのよさと、今までの努力、そして自分たちで立てた目標を達成したいという強い気持ちがあったからだと思います。苦しい中でもお互いに声を掛け合い、最後の最後まであきらめず、全員でつないで勝つという強い意志が3位入賞という結果に繋がりました。負けた瞬間は悔しさがあふれましたが、一方で3位入賞という目標を達成できたことの喜びを笑顔で分かち合う事ができました。

「全国3位入賞」。これは県秋季大会後に生徒が話合って決めた令和四年度の目標です。この目標を常に意識して練習をし、絶対に成し遂げたいという気持ちで道場に掲示しました。勝平中はこれまで全国大会に6回、出場し

ていますが、団体ベスト8入賞が今までの中で最高順位です。それを上回りたいという生徒の願いがこの目標に込められています。昨年の神奈川全中にも出場する事ができましたが、自分たちの力を発揮する事ができず、予選2回戦で敗退してしまいました。その悔しさをバネにこの1年間、練習を積み重ねてきました。練習や試合を重ねるうち、今のままでは全国で勝ち進むことはできない、何が自分たちに不足しているのか等を考えるようになりました。そこで秋田県内だけでなく、県外にも目を向け、学校や保護者会の協力を得て、たくさんの方々に参加させていただきました。特に、全国大会常連の学校と剣を交え、技術的なことはもちろん、精神的な強さやチームとしてどうあるべきかについても身をもって学ぶことができました。また、錬成会では自分の思うような試合ができずに何度も涙を流しながら、チームで話し合いを重ね、どうするべきかを悩み、苦しみながら試合を積み重ねてきました。何事にも代え難い貴重なことをたくさん学ぶ機会となりました。今回、入賞できたのは大

勢の方々のご支援やご協力のおかげであり、選手のこれまでの努力が実を結んだ結果だと思えます。また、大会終了後、多くの方々からお祝いの言葉を頂き、とても嬉しく思いました。支えてくださる周囲の方がおかげでこのような結果を残す事ができた事に感謝の気持ちでいっぱいです。これまでのご支援、ご協力本当にありがとうございます。今後はさらに上を目指して精進していきたいと思います。

大会結果

女子団体 第3位

優秀選手賞 淡路 咲来

予選

1回戦 対富雄中(奈良県) 4対1

2回戦 対諏訪中(福岡県) 2対1

決勝トーナメント

1回戦 対平坂中(愛知県) 3対2

2回戦 対龍雲中(香川県) 2対2

本数勝ち

準決勝 対聖ドミニコ中(宮城県)

1対2

新八段誕生
終わりの無い道



千田 信治

見事に難関でしたが漸く昇段させて戴くことが出来ました。先ずは、剣道・居合道を通してご指導とご厚誼を戴いた先生方に、心から御礼と感謝を申し上げます。戴いたご指導の一言一言の重さを感じております。有り難う御座いました。長い間、研鑽を共に歩んだ仲間の先生方に、そして最近居合道を始めたばかりの方々にもお礼を申し上げます。偉く難しい道ですが、皆さんの「面白いです。」を支えに、これからも居合道・剣道を通して自分造りを目指して参りたく、同行宜しくお願ひします。

5年前にお亡くなりになるまで足繁く通い、古流・夢想神伝流をお習いしていた山形の師・松峯範士には「教えることが楽しくなったら、八段は諦めなさい。」と、一途に立ち向かう姿勢を求められましたけれども、初心者指導や、選手強化のお仕事を考えれば難しい問題でした。これからは伸びやかなに、二元神・山本五十六が好んで使った禅語に言う「やって見せ、言っただけで聞かせてみて、褒めてやらねば人は動かじ。」を実践して行こうと思っ

います。(笑い)
尤も八十路まで残す所一年、油断の無いお手本としての「やって見せ」がどこまで出来るか、八段受審時代以上の精進が必要となるでしょうし、体力的な衰えを考えれば日々の修練は量より質に変わり、内面の更なる充実を求め一本を探すことになりました。終わりの無い道、これからは本当の修行になると真剣に考えています。居合道の八段審査会は、年に一度だけ5月に京都で行われていました。前日「全日本剣道演武大会」で、終日居合道演武が行われます。10年ほど前までは、秋田県からいつも7、8人は参加し、初日は武徳殿での演武に酔い、全国から集う同好の士との語らいに酔い、近くのホテルに帰るや、居合談義に花を咲かせ、明日の審査の前祝いと称して伏見や灘の酒に酔っていました。殆どは参加することに意義を見出していた時代でした。でも楽しかったです。皆さん高齢になるに従い、石田先生と私が残りました。

石田先生が合格された頃は、第一次審査が全剣連居合7本、合格者は第二次審査に進み、古流7本、共に8分以内の演武時間でした。令和元年からは古流が審査項目から消え、全て全剣連居合での審査になります。一次審査6本・7分以内、合格者による二次審査は、12本・12分以内の演武時間です。最近は一審審査だけは通っています。したがって、今年の5月の一次審査で不合格のショックは大きく、杳然としていたのでしょうか。後ろから受審仲間が慰めるように時間超過であった事を教えてくれました。コロナ禍での審査会は荷物を持つての一方通行、二次に残った人達の演武を拝見することにも適いません。キャスター付きの荷物の首を気にしながら、送り出されるように表に出ました。剣窓4月号で、今年初めて八段審査を11月にも、しかも今度は東京で行なう事が発表されておりましたから、武徳殿脇のあちこちの松の木の下に幾組か固まりながら、捲土重来を期し、半年間の精進を誓う風景がありました。

そして11月16日、今までと違い、こんな居合も抜けるんですと迫る演武を心掛けました。一次審査は、6本が1本の技のように抜けました。二次審査では全日本剣道連盟居合、12本を抜き終え、今までに無かった演武の手応えを反芻しながら、合格発表の張り紙に自分の番号を確認、15回目をやつと辿り着いたという安堵感と、これからは全て八段位の演武になるのだという矢面に立たされた緊張感が重なり、帰ったら直ぐにも稽古をしたいと思つた次第です。

「その段位になって初めてその段位の居合が抜けるようになる」と最初の師匠である浅利先生は、段位挑戦の大切さを教えて下さいましたが、何人も八段範士の先生から、「未だこれぞと思う初発刀(初伝の一本め)を抜いた記憶が無いんだよ。」とお聞きするうちに、居合道の深淵を覗きながら



50年、私の修行は緒に就いたばかりの心境です。考えてみれば、簡単に「これだ」と解るようでは続いてみせんよ。それでもこれぞと覚えてみたい。だから面白い。浅利範士、松峯範士共通の師匠であった壇崎範士は、「80歳を過ぎて、納得出来る初発刀が1本だけ抜けたんだよ」とよく語られていらしたそうですが、「名人にして言える、位の高い言葉であった。」とお弟子さんが記すように、やはり別格の世界だったのかもしれない。

浅利先生に戴いて、今でも使っている夢想館道場の手拭いや東北高段者の会のバスタオルには「生涯錬磨」と大書されています。慣れ親しんでやっと今、真の目標になっていきます。道の奥深さと豊かさを目の当たりにしながら、時代を越えて我が国に根差す伝統文化に日々勤しむ幸せを、一日でも長く、一人でも多くの人達と世代を越えて共有したいと願ひ、精進して参りたいと思ひます。

主催大会結果

●第61回秋田県剣道段別選手権大会

男子初二段

優勝 五十嵐唯人(秋田南)

2位 本間 廉基(明桜)

3位 保泉 颯(秋田商)

小野寺平良(秋田南)

男子三段

優勝 小野 太心(秋田南)

2位 淡路航志朗(秋田南)

3位 井川 優樹(明桜)

郡 慶有(明桜)

●第45回秋田県女子剣道段別選手権大会

女子初二段

優勝 及川日菜子(秋田商)

2位 高橋 秋羽(秋田商)

3位 宇佐見千紘(秋田南)

菅原 陽菜(秋田南)

女子三段

優勝 佐藤 悠月(秋田北)

2位 小野 萌子(秋田北)

3位 木樽 優里(能代)

大竹 玲那(秋田北)

●第61回秋田県中学校剣道大会

優勝 秋田北

2位 御野場

3位 土崎

天王南

●第32回秋田県中学校女子剣道大会

優勝 土崎

2位 勝平

3位 横手南

御野場

●第73回県民体育大会剣道競技

少年男子

優勝 東海林健太(秋田南)

2位 小野 太心(秋田南)

3位 加藤 春輝(秋田商)

淡路航志朗(秋田南)

少年女子

優勝 高階 花海(秋田商)

2位 小野 萌子(秋田北)

3位 菅原 陽菜(秋田南)

宇佐見名月(秋田商)

成年男子先鋒

優勝 小野 洋介(中央大)

2位 高橋京太郎(法政大)

3位 土田 倅大(日本体育大)

高橋 舜(筑波大)

成年男子次鋒

優勝 伊藤 智博(機動隊)

2位 国安 和葉(機動隊)

3位 小野 賢也(機動隊)

成年男子中堅

優勝 鷲谷 和(聴覚支援学校教)

2位 金森 康臣(秋田南高教)

3位 佐々木祐輔(湯沢翔北高教)

成年男子副将

優勝 高橋 伸友(秋田商高教)

成年男子大将

優勝 伊藤 秀樹(東成瀬中教)

2位 辻 文彦(秋田工高教)

3位 小松 紀久(秋田県警)

勝田 宗之(比内支援かつの校教)

成年女子先鋒

優勝 山田 夏(筑波大)

2位 高島 愛理(大阪体育大)

3位 渡邊 柚(秋田県庁)

佐藤 美乃(中央大)

成年女子中堅

優勝 加藤 由佳(秋田北高教)

2位 岩井川杏子(湯沢北中教)

成年女子大将

優勝 田宮美知子(新潟運輸)

2位 浅野 優子(マツモト)

3位 金 杏奈(大館市役所)

田山 恵子(CabinMK)

●第61回全日本女子選手権大会

秋田県予選会

優勝 加藤 由佳(秋田北高教)

2位 齋藤 芽生(秋田商)

3位 渡邊 柚(秋田県庁)

山田 夏(筑波大)

●第70回全日本剣道選手権大会

秋田県予選会

優勝 伊藤 智博(機動隊)

2位 国安 和葉(機動隊)

3位 廣谷 文利(機動隊)

笹山 諒介(機動隊)

●第44回秋田県居合道段別選手権大会

初段

優勝 小笠原 乾

2位 稲葉 海斗

二段

優勝 中山 雅史

2位 清水 卓史

三段

優勝 保坂 正

2位 中田スベトラ一

3位 中田 俊介

照井 耐

四段

優勝 村木 孝一

2位 稲葉 優作

3位 鈴木 隆夫

五段

- 優勝 村上 宙思
- 2位 小幡 雄平
- 3位 佐々木大地

六段

- 優勝 沓澤 辰雄
- 2位 黒澤 直樹
- 3位 根本 暢幸

七段

- 優勝 戸田 愷章
- 2位 内田 幹夫

●第67回秋田県少年剣道大会

低学年の部

- 優勝 勝平スポ少A
- 2位 雄信館A
- 3位 雄信館B
- 秋水館

高学年の部

- 優勝 港剣志館A
- 2位 雄信館
- 3位 奥檜館A
- 東昇剣

●第35回秋田県都市対抗剣道大会

高齢者の部

- 優勝 湯沢雄勝
- 2位 大館北秋
- 3位 秋田市

女子の部

- 優勝 湯沢雄勝
- 2位 由利本荘にかほ
- 3位 大館北秋

男子の部

- 優勝 秋田市
- 2位 大館北秋
- 3位 大曲仙北

総合

- 優勝 秋田市
- 2位 大館北秋
- 3位 湯沢雄勝

●第25回秋田県小学生学年別剣道大会

4年生女子

- 優勝 植田 彩夏(有武館矢島)
- 2位 加賀屋 雅(港剣志館)
- 3位 伊藤 結舞(東昇剣金足)
- 渡邊 桜心(港剣志館)

5年生女子

- 優勝 原田 彩未(勝平スポ少)
- 2位 児玉 柑奈(勝平スポ少)
- 3位 三浦 咲(東昇剣金足)
- 免沢真里亜(楓凜館)

6年生女子

- 優勝 阿部 桜(楓凜館)
- 2位 石黒 莉央(勝平スポ少)
- 3位 大西野乃花(有武館渡部)
- 佐藤 有紗(雄信館)

4年生男子

- 優勝 浅石 直尊(楓凜館)
- 2位 石黒 瑛士(勝平スポ少)
- 3位 豊田 大和(楓凜館)
- 戸松 瑞貴(雄信館)

5年生男子

- 優勝 杉山 大心(雄信館)
- 2位 最上 泰地(港剣志館)
- 3位 滝城 創大(港剣志館)
- 佐々木聖太(港剣志館)

6年生男子

- 優勝 柳田湖太郎(大曲有武館)
- 2位 茂木 孝哉(洗心館)
- 3位 村山 徠純(鶴舞)
- 安田 愛琉(東昇剣金足)

●第27回秋田県中学生学年別剣道大会

1年生女子

- 優勝 川邊萌々香(城南)
- 2位 木村 美友(花輪)
- 3位 森本 音彩(秋田北)
- 鷲谷 和笑(能代二)

2年生女子

- 優勝 工藤 朋子(能代二)
- 2位 横山 海優(城南)
- 3位 川井 蓮乃(土崎)
- 宇佐見百花(土崎)

1年生男子

- 優勝 村田 慶侍(御野場)
- 2位 松橋 歩生(土崎)

3年生男子

- 児玉 智生(土崎)
- 初山 遼佑(仙北)
- 2年生男子
- 優勝 小野 翔(角館)
- 2位 三浦 歩(秋田北)
- 3位 斎藤 京介(秋田北)
- 後藤 隆太(大曲)

第27回秋田県高校生学年別剣道大会

1年生男子

- 優勝 高山 海斗(明桜)
- 2位 土谷 貴輝(明桜)
- 3位 大野 駿介(秋田商)
- 土田 剛士(明桜)

2年生男子

- 優勝 溝淵 力也(秋田商)
- 2位 保泉 颯(秋田商)
- 3位 本間 廉基(明桜)
- 小野寺平良(秋田南)

1年生女子

- 優勝 大竹 璃胡(秋田北)
- 2位 瀧澤 史歩(秋田北)
- 3位 高橋 一花(秋田商)
- 畠山 桜(秋田北)

2年生女子

- 優勝 高橋 秋羽(秋田商)
- 2位 宇佐見千紘(秋田南)
- 3位 菅原 陽菜(秋田南)
- 及川日菜子(秋田商)

●第59回秋田県社会人剣道大会

一部

優勝 秋田銀行

2位 JR秋田A

3位 勝平剣友会

泰智真英会

二部

優勝 Team天王

2位 四門会

3位 秋田犬人会B

ブルー・マウンテン

●第50回東北居合道大会

(若手県営武道館・9月18日)

出場選手

三段 保坂 正 照井 耐

四段 村木孝一 鈴木隆夫

五段 村上宙思 小幡雄平

六段 沓澤辰雄 黒澤直樹

七段 内田幹夫 戸田愷章

成績

七段 3位 内田幹夫

●全日本剣道連盟設立70周年記念

第57回全日本居合道大会

(東京武道館・10月8日)

出場選手

五段 村上宙思(二回戦)

六段 沓澤辰雄(一回戦)

七段 戸田愷章(二回戦)

成績 入賞者なし

●令和2年度称号、六・七段合格者

【剣道】

教士

〔京都〕2022年5月6日

茂木 靖生(大曲仙北)

佐々木 健(大曲仙北)

小松 明久(秋田市)

浅野 厚(秋田市)

筒井 洋美(秋田市)

錬士

〔京都〕2022年5月6日

伊藤 一孝(男潟南秋)

〔東京〕2022年11月18日

佐藤 賢人(男潟南秋)

伊藤 智博(秋田市)

長谷川智香(秋田市)

七段

〔新潟〕2022年8月20日

鷺谷 和(男潟南秋)

出町 吉弘(大曲仙北)

越高ひとみ(男潟南秋)

古野 博一(秋田市)

〔愛知〕2022年11月12日

金森 康臣(秋田市)

佐々木祐輔(湯沢雄勝)

〔東京〕2022年11月19日

須田恵美子(湯沢雄勝)

廣瀬 昌一(横手市)

山脇 清子(湯沢雄勝)

山村 浩秋(秋田市)

六段

高橋 清純(秋田市)

〔京都〕2022年4月29日

佐々木圭子(大館北秋)

〔愛知〕2022年5月15日

船越 俊幸(能代山本)

〔新潟〕2022年8月21日

古山 真也(秋田市)

岡田 信介(男潟南秋)

宇瀬 隆広(男潟南秋)

〔愛知〕2022年11月13日

村上 眸(横手市)

田口浩太郎(横手市)

〔東京〕2022年11月18日

三國 佳紀(大館北秋)

菅原 耕治(男潟南秋)

【居合道】

錬士

〔東京〕2022年11月18日

黒澤 直樹(秋田市)

沓澤 辰雄(大曲仙北)

八段

〔東京〕2022年11月26日

千田 信治(秋田市)

六段

〔東京〕2022年11月27日

本田 邦俊(能代山本)

●第21回毎日レディース剣道大会

すみのの部(小中学生)

楓凧館鹿角道場チームが第3位に入賞

一回戦

楓凧館1(1)―0(0)都岡剣友会A(神奈川)

二回戦

楓凧館2(5)―0(1)江戸川報徳会(東京)

三回戦

楓凧館2(3)―1(1)鬼高剣友会(千葉)

四回戦

楓凧館2(3)―1(2)剣道海ノ風(千葉)

準々決勝

楓凧館1(2)―1(1)北本剣士会(埼玉)

準決勝

楓凧館0(0)―1(1)武蔵館(埼玉)



勝吾先生を偲んで

明桜高校剣道部 顧問 鷺谷 翼

私が勝吾先生の訃報に接したのは令和4年11月19日の朝でした。第63回秋田県高校剣道新人大会のため、秋田県立武道館に到着した直後のことでした。その前日、県立武道館では会場設営と審判講習が行われており、その中で勝吾先生が入院しているという話を初めて聞きました。ただ、「そんなに容体が悪いわけではない。じきに退院できるみたいだから安心して」と、ある先生から聞いていましたので、訃報を聞いた時は頭の中が一瞬真っ白になったことを覚えています。

私は現在、明桜高校剣道部の顧問を務めておりますが、その前身は秋田経済法科大学附属高校剣道部であり、その基礎を築いたのが勝吾先生です。私が本校に採用された当時、剣道部は勝吾先生、伊藤たか子先生、熊谷浩司先生の3人で指導を行っており、勝吾先生と私では30以上年齢が離れていました。また間もなく勝吾先生は学校の要職に就かれ剣道部を離れましたので、剣道部の歴史やエピソードは、当時監督を務めていた熊谷先生からたくさん教えていただきました。その中で私は、勝吾先生の剣道に対する情熱と勝負に賭ける熱い思いを知りました。熊谷先生からバトンを受けて、私

一人で剣道部を指導することになった時に、「何とか勝吾先生に喜んでほしい」「感謝の結果で伝えたい」と思ったのもその気持ちに報いたかったからです。

しかしその思いとは逆に、しばらくの間、本校は全く結果を残すことができませんでした。勝吾先生が切望していた「男子団体での全県総体初優勝」はおろか、全県総体の予選リーグさえ上がれない年が続きました。ただそのような低迷した時代であっても、勝吾先生は遠くステージの上から必ず本校の試合を見てくれていました。そして帰りがけには一言「頑張れ」と声を掛け続けてくれました。その思いに支えられ、本校は令和元年、全県総体男子団体で初優勝を飾りました。歓喜に沸く本校の選手たちの脇で、勝吾先生は「おめでとう」と言って握手をしてくれました。勝吾先生が涙を流した姿を見たのはこれが最初であり、そしてこれが最後になるとはこの時は思っています。

訃報を聞いたその日の朝から始まった全県新人大会。大会プログラムには役員として勝吾先生の名前が載っていました。何事もなければずっと武道館にいらして、いつも通り何も言わず本校の試合を見てくれていたはずだったと思うと涙が流れました。またそれと同時に、何が何でも今回の大会は優勝しなければならぬと心に誓いました。生徒にはあえて勝吾先生の話しませんでした。生徒

たちは何かを感じたように一戦一戦集中して戦ってくれました。結果は男子団体・男子個人共に優勝。昭和56年に経大附として優勝して以来の優勝でしたが、その時指導していたのは勝吾先生でしたので、何か不思議な縁を感じずにはいられませんでした。

最後になりましたが、私自身、勝吾先生には何も恩返しができなままのお別れとなってしまいました。天国の先生はきつと今でも秋田県の剣道、自分の剣道、そして母校の剣道のことを気にかけていると思います。先生が何も気にせず、大好きなタバコを思い切り楽しめるように、残された一人の剣道人として今後も精一杯頑張りたいと思います。

勝吾先生、今までお疲れさまでした。そして本当にありがとうございました。



広報委員会からお知らせ

各都市で行われている行事や大会結果などをホームページに掲載したいと考えております。記事の内容や写真などを下記連絡先まで送ってください。

(連絡先)広報委員会 鹿子澤 浩美
Email: shukenren@gmail.com

編集後記

いちご一会とちぎ国体での少年女子、少年男子の活躍は、秋田県剣道連盟創立七十周年に華を添えてくれました。監督、コーチ、選手はもとより、所属する高等学校の指導者、さらには幼少中学校の指導者の熱心な指導の賜物と深く感謝いたします。

また、国体の他にも、千田先生の居合道での八段合格、勝平中の全中女子団体3位、楓凜館鹿角道場の毎日レディース剣道大会での3位入賞等、「尚武秋田」の名を全国に轟かせてくれました。

一方、高橋勝吾先生の突然のご逝去の知らせには驚きを隠せません。優しい語り口の先生の在りし日のお姿をお偲びし、心からご冥福をお祈りいたします。

次の十年、「尚武秋田」の名が今まで以上に全国に轟くことを切に祈念し…(R+)

編集

秋田県剣道連盟

- 高橋 亮 芳谷 正人
- 鹿子澤浩美 辻 文彦
- 柏木 亮 船越 俊幸
- 糸井 一保 筒井 洋美
- 岩船 志保 目黒祐美子